

入会のご案内

退職公務員新聞

一般財団法人 **日本退職公務員連盟**
 〒113-0034 東京都文京区湯島4-12-3
 ☎03(3822)1216 FAX03(3824)7779
 振替00150-9-94644
 E-mail: yushima@nikkoren.info
 号外

会長挨拶

人類史に残る壮大な事業がある
—今、生き方を選ばれるとき—

一般財団法人 **日本退職公務員連盟** 会長 **津島 雄二**



皆様お疲れ様でした。今は、肩の荷を下ろしたという実感があ

りでしょう。長年、国家・社会のために人生を捧げてこられた実績と充実感が湧いてくるのはこれからです。ご存知のように我が国は、人類が未だかつて経験したことがない超高齢社会を迎えています。特に人口減少の流れは、将来の国の生産力を脅かし、高齢者と女性の社会参加を求めています。

皆様には、健康で体力があり、活動の場と機会があれば「一人のために」という思いがおりと思います。再任用等の勤務の余力で、お住まいの都道府県退職公務員連盟でその思いを行動に移されませんか。

昭和27年からは、財団法人として会員の生活に心をもち、広く国民の現状を踏まえた年金・医療・介護を含む21世紀型の社会保障制度の構築に関わろうとしていま

す。政府は今、全世代型社会保障制度の政策を掲げて「働き方改革」等、特に、「幼児教育の充実」を図ろうとしています。その目指すところは、国民が力を合わせて若者や現役世代が働きやすい、安心して子育てができる環境を創って、社会の活力を維持し、高めて、世界が目指す幸せな超高齢社会を創ることにあります。

公のために働いてきたことで「よし」とせ、長年の経験と知識を活かして、世のために、もう一働きされて、公務員人生を全うされませんか。その活動が、ご自身の退職後の長い人生の健康と生きがいと人との交流を広げて、自立した生活を維持することにもなります。

皆様、この支えて受ける相互作用が豊かに展開される、人類史に残る超高齢社会構築という壮大な事業に参加してください。地域社会は皆様の動きに期待し、安定した社会の実現を望んでいます。公に捧げる最後の仕事として退職と共に活動されることを心から願っています。

退公連は退職後の生き方の拠点 健康と生きがいを手にして人生の集大成を

われらの信条

- 一、われらはかつて公務員であった矜持と面目を堅持し、理想的な日本公務員制度の確立を要望する
 - 一、われらは全国民の福祉増進を念じつつ進んで公共に奉仕し、平和的文化国家建設の大業に寄与する
 - 一、われらは和を貴ぶ、同胞融合、隣保相助の民風を尊重し、身をもってその育成につとめる
 - 一、われらは思想的、政治的自由をもち、常に公正と中庸において帰一する
 - 一、われらは組織のもとに団結する、われらの生活はこの組織と団結によって断固自ら守りぬく
- 一般財団法人 **日本退職公務員連盟**

退公連が目指すもの

- ◎ **退職後の生活保障**
 - ▼年金制度の改善・高齢者医療、介護制度の改善・充実
 - ▼高齢者、女性の雇用、公務の特殊性に配慮した年金制度の確立
 - ▼社会保障制度の情報提供と取り組み、年金相談の実施と充実
- ◎ **現役公務員の支援**
 - ▼公務員の65歳定年制の実現
 - ▼年金制度の持続と次世代への引き渡し
- ◎ **社会貢献活動に積極的参加**
 - ▼子どもの健全育成、伝統文化の伝承
 - ▼高齢者施設訪問、街の清掃等活力ある地域づくり
- ◎ **会員相互の交流と地域との信頼関係**
 - ▼地域の人々と研修会、健康づくり、旅行、趣味の活動等をもって、活力あるより幸せな長寿社会の実現をめざす



津島会長 石田真敏総務大臣に要望書を

平成の年金制度改革と令和元年度日公連の要望事項

当連盟は、昭和23年発足以来、全国の会員が結集して恩給・年金制度改革に取り組みしてきました。現在はこの制度が次世代の評価に耐えられる内容で、引き継ぐことができるよう努力しています。そこで平成時代30年の間に、日公連、退公連の社会保障制度改革に関する要望活動と、実際改革に反映されたその内容を振り返ってみます。

(一) **年金払い退職給付制度の創設**
 公的年金制度一元化に伴って創設されました。共済年金の職域加算に替わる制度です。「公務員の職務の特殊性、有為な人材確保」と、現役公務員への配慮です。

(二) **基礎年金の国庫負担割合の2分の1へ引き上げと財源の恒久化**
 年金財政の安定化を目指して、国庫負担を平成16年改正で2分の1に引き上げ、平成26年4月の消費税増税に伴って恒久化されました。

(三) **デフレ経済下でのマクロ経済スライドの実施は慎重に**
 マクロ経済スライドとは、公的年金加入者数と平均余命等から算出した調整率で自動的に年金の受給額を調整する仕組みです。日公連は「デフレ経済下での実施は慎重に」と、再三にわたって関係各方面に要望しました。

平成28年の年金額の改定ルールの見直しの中で、デフレ経済下では賃金・物価が上昇したときまで調整を持ち越すことになっていきます。

(四) **65歳定年制の実現に向けて**
 年金の支給開始年齢が段階的に引き上げられている中で、日公連は65歳定年の実現を、平成21年度から主張して、要望活動を展開してきました。この主張が官・民を問わず広がって、国家公務員法改正案等を国会に提出すべく現在、準備が進められています。

(五) **今後の公的年金制度と退公連と日公連**
 現在、公的年金制度は高齢者の生活の基礎を支える仕組みとして、現役世代の保険料負担で年金給付費の約7割を支えるまでになつて制度は成熟期にあります。その恩恵を受けている私たちは、連盟創期及びその後の制度改革に努力された大勢の先達の苦勞に思いを馳せたい。そして、この制度を次世代が評価する内容にして伝えていきたいと思えます。

令和元年度 **要望事項** (要点)

- 一 公務員が職務に専念できる環境整備
- 一 社会保障給付費の財源は安定した雇用と経済成長により確保
- 一 65歳定年制の実現、在職高齢年金の改善、女性や子育て世代が安心して働きやすい環境整備
- 一 現役世代の収入と公的年金の給付水準と比較するとき、保険料等を年金から控除した額で
- 一 社会保障制度の改革は、年金が国の経済を下支えしていることに配慮し、年金生活者の負担が過重にならぬよう慎重に

写真でみる退公連活動



『人生が好転する笑い三方』
(沖縄県連)



『エンディングノートをつくってみませんか』
(福島県連福島支部研修会)



『国会議員の方々に要望活動』
(長野県連役員の皆様)



『わらべうた親子教室』
(広島県連神石支部)



『栃木県と共催で2人の出会いをつくろう』
(栃木県連)



『楽しいことを一緒にそば打ち体験』(京都府連亀岡支部)



『小学生上庄里芋を植える』
(福井県連大野支部)



『川土手に芝桜の植え付け』
(山口県連鹿野支部)



『学校支援ボランティア』
(千葉県連船橋支部)

退公連活動の3本の柱

- ① 社会保障制度改革への対応
- ② 社会貢献活動への積極的参加
- ③ 組織の拡充・強化と活性化

退職者の生活に最も大切な年金、医療、介護に関する社会保障制度に変化がおよそ10年かけて進んでいます。本連盟が「健康と生きがいを手につけて、安定した老後を過ごせることを目指す」という思いを伝えていくためには、組織の力と会員の増加が必要で、この3つが本連盟の柱です。

① 社会保障制度改革への対応
現在、年金、医療、介護に関する社会保障制度に変化がおよそ10年かけて進んでいます。本連盟が「健康と生きがいを手につけて、安定した老後を過ごせることを目指す」という思いを伝えていくためには、組織の力と会員の増加が必要で、この3つが本連盟の柱です。

② 社会貢献活動への積極的参加
現在、年金、医療、介護に関する社会保障制度に変化がおよそ10年かけて進んでいます。本連盟が「健康と生きがいを手につけて、安定した老後を過ごせることを目指す」という思いを伝えていくためには、組織の力と会員の増加が必要で、この3つが本連盟の柱です。

③ 組織の拡充・強化と活性化
現在、年金、医療、介護に関する社会保障制度に変化がおよそ10年かけて進んでいます。本連盟が「健康と生きがいを手につけて、安定した老後を過ごせることを目指す」という思いを伝えていくためには、組織の力と会員の増加が必要で、この3つが本連盟の柱です。

年金世代も、続く世代も、共に健康で安定した老後を過ごすために

日本退職公務員連盟組織委員長 山川勇一



現在の検討されている「在職老齢年金の減額基準の改正」も日公連が長く主張してきた方向で調整されている。年金と厚生年金の統合により、共済年金の「職域部分」(2万円程度)はなくなり、代替わりして年金払い退職給付制度が実現します。次世代の年金受給者には朗報です。この事に関しては、日公連本部役員等が「何とかしては」との思いで、関係政府機関等との交渉を続けた結果です。

現在検討されている「在職老齢年金の減額基準の改正」も日公連が長く主張してきた方向で調整されている。年金と厚生年金の統合により、共済年金の「職域部分」(2万円程度)はなくなり、代替わりして年金払い退職給付制度が実現します。次世代の年金受給者には朗報です。この事に関しては、日公連本部役員等が「何とかしては」との思いで、関係政府機関等との交渉を続けた結果です。

令和元年度全国大会



令和元年度全国大会 東京・文京シビックホール

令和元年度の全国大会は、10月31日東京・文京シビックホールに会員約1千名、国会議員本人30名・代理12名、関係諸団体の代表の皆様の参加をいただき、感謝の気持ちを大切に「元衆議院議長伊吹文明先生」「医療・介護に頼らない豊かな人生を」と元自由民主党総務会長細田博之先生に全国大会開催の祝辞を賜った。

日公連70年の歩み

- ①昭和23年2月「全国恩給増額期成同盟」誕生。
- ②同年5月第1回全国大会を開催、26道府県参加。
- ③同年7月恩給増額法可決 恩給額は12~26倍となる。
- ④同年11月「全国恩給受給者連盟」に改称。
- ⑤昭和24年加盟団体は46都道府県に、昭和33年沖縄県連の加盟により47都道府県になる。
- ⑥昭和25年「日本退職公務員連盟」と改称。
- ⑦昭和26年5月「退職公務員新聞」創刊。
- ⑧同年6月「財団法人日本退職公務員連盟」設立趣意書及び「われらの信条」を決議し、発表。
- ⑨昭和27年4月28日天野貞祐文部大臣より、「財団法人日本退職公務員連盟」の設立が許可される。
- ⑩連盟創立10~20周年の間に、毎年の公務員給与アップに伴う恩給増額、不均衡是正など多くの運動の成果を挙げて組織も拡大した。
- ⑪昭和48年以降、公務員の給与の改善と物価の上昇率を恩給・年金に反映させる方式となる。第1回全国婦人部長会開催
- ⑫昭和49年日本退公連会館が竣工。
- ⑬日公連は公務員の職務の特殊性を主張。昭和61年公務員固有の「職域年金部分」が新設された。
- ⑭平成12~26年度本来水準を上回る年金額維持に尽力。
- ⑮被用者年金一元化に伴う年金の減額に関する活動により一定の配慮措置がつく。
- ⑯平成25年4月『われらの信条』の下、「一般財団法人日本退職公務員連盟」として、社会保障制度改革に関する要望活動、地域社会の活性化に強力に、継続的に関わる新たな活動のスタートをする。
- ⑰超高齢・人口減少社会における社会保障制度の在り方及び活力のある地域社会構築を今後の課題として取り組む。
- 年金制度の持続可能性の確保
- 将来世代の年金給付水準の確保に向けた努力
- 退公連と地域社会との関係強化
- 会員の豊かな人生構築に力を貸す退公連の活動
- 頻発する自然災害被災会員への義援金送付

共に行動し、健康と生きがいを生み出す退公連をつくらう

都道府県退職公務員連盟 支部名

令和元年度 会員構成 (令和元年8月末現在) 単位:人

正会員	160,743	性別	教職	123,513	郵政	1,972
男	101,229		都府県職	8,476	農林	317
女	59,514	市町村職	15,523	電電	75	
準会員	66,674	警察	5,803	専売	29	
賛助会員	14,391	消防	2,409	国公	1,537	
会員総数	241,808	日鉄	233	その他	856	